

令和 5 年度障害者支援施設 ICT 機器活用モデル事業

つがるの里

機器名	メーカー	導入後の効果
無線 LAN アクセスポイント 	Allied Telesis	各機器をネットワークでつなぐことで、情報の一元化による支援業務の効率化と迅速な対応を支えるインフラが構築できた。
ケアカルテ 	ケアコネク ジャパン	利用者情報を一括管理することで、どのデバイスからでも必要な情報をすぐに記入、検索、確認等ができるようになった。
眠りスキャン 	パラマウント ベッド	利用者の就寝状況をリアルタイムに確認でき、事故等の発生抑制や自動記録により、支援員の心理的、身体的負担が軽減した。
iPhone14・ハナスト・ 骨伝導イヤホンマイク   	Apple ケアコネク ジャパン SHOKZ	- ケアカルテと連携し、音声入力ですべての記録が可能となり、入力忘れやミスが少なくなった。 - インカム機能により、支援員間の連絡がスムーズに行えるようになった。
iPad 第 10 世代 	Apple	- パソコンが無い部屋でも、記録の入力や確認ができるようになった。 - 研修時等、大量にある資料の閲覧用デバイスとして活用できるようになった。